

早稲田大学 教育学部 世界史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	出題形式・分量(記述式10問・選択問題40問の計50問)ともこのところ変化は全くない。一昨年に初めて登場した二文正誤判定問題と年代配列問題は今年も継承された。また、これまで出題されなかった地図問題が登場した。難易度は昨年と同程度。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	ヨーロッパの身分と権利・ルネサンス	<p>欧米社会の原理原則である基本的人権や法の下での平等の歴史的背景についてのリード文。含蓄のある文章で読んだためになる。</p> <p>(1): a-「アンティゴノス朝」が支配したのは本国のマケドニア。b-市場が開かれたのはアゴラ(広場)。d-コリントス同盟にはスパルタが唯一不参加。(2): a-元老院と結んでカエサルに対抗したのは「ポンペイウス」。クラッススはパルティアと戦って死んでいる。b-リキニウス・セクスティウス法(前367)でコンスルのうち1人は平民から選出されることになった。d-同盟市戦争(前91~前88)の際、ユリウス法(前89)で反乱に加担していない同盟市にローマ市民権を与えたさらにこの戦争中の諸法によってパドゥス(ポー)川以南の同盟市にローマ市民権が賦与され、戦後独裁官となったスラが元老院の承諾を得てイタリア半島の全自由民にローマ市民権が賦与されるにいたった。この間の経緯については教科書・参考書・用語集の説明が錯綜気味なので戸惑う受験生も多いはず。(3)は①・②とも正文。(4): bのボッシュエはルイ14世につかえた仏の聖職者でガリカニズム(仏国家教会主義)の理論家、王権神授説を主張した。(5): a-『法の本質』はモンテスキュー。b-農奴解放令はヨーゼフ2世の事績。d-コルネイユ(1632~75)・ラシーヌ(1639~99)ら古典主義演劇は17世紀の仏を中心に展開された。一方、啓蒙思想は仏を中心に展開したという点では同じだが時代は18世紀である。古典主義が啓蒙思想に影響することは時代的にもあり得ない。</p> <p>(6): aのコペルニクスはプトレマイオス天文学に疑問を持ったところから地動説に至った。b-ダンテの出身はフィレンツェ。c-「最後の審判」の作者はミケランジェロ。(7): b-「祈り、働け」はベネディクト修道会の標語。(8): b-『ユートピア』はトマス・モアの作品。c-ドイツ農民戦争(1524~25)に対するルターの態度は頻出事項。はじめ農民に同情的だったルターは急進化する農民の動きに批判的となり最終的には反乱鎮圧を呼びかけるに至った。d-アウグスブルクの宗教和議(1555)ではカルヴァン派は認められていない。(9): c-宗教裁判は「強化」されたのであって「開始」されたわけではない。(10): ①-アントウェルペンとアムステルダムの内容は逆。②-マカオ返還は1999年、ゴアは1961年にインド軍の武力行使によって回収された。ゴアは昨年も出題されていた。設問A: プルタルコス(プルターク)。設問B: 『市民政府二論』は基礎事項。設問C: ゴイセンはピューリタン(イングランド)・プレスビテリアン(スコットランド)・ユグノー(仏)と並ぶカルヴァン派の異称。</p>	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
2	バルト海沿岸の国家と都市	<p>(1): d-アウスグライヒ(妥協)(1867)とは普墺戦争(1866)で敗北したオーストリアがハンガリーを王国として承認した協定。これによってオーストリア=ハンガリー二重帝国(1867~1918)が成立。目的はハプスブルク帝国域内のスラヴ人を抑えることにあった。(2): a-アウグスブルクはいわゆる「帝国都市」の一員。ハンザ同盟都市の異同は頻出事項なので要注意。(3): ポーランドの自主管理労組「連帯」結成の年(1980)を問う問題。細かいというよりなかなか手が回らない分野。このあたりまでしっかり押さえるには相当な労力が必要である。(4): b-クリミア半島を併合したのはエカチェリーナ2世。(5): a-シュタイン・ハルデンベルクは農奴解放(限定的ではあった)が正しい。b-ピスマルクは議会と対立が正しい。d-シュレスヴィヒ・ホルシュタインをめぐる戦ったのはデンマーク。(6): 「18世紀」という枠を設定して史実の年代を確認させる問題。a-米西戦争(1898)・c-アンボイナ事件(1623)・d-インド帝国成立(1877)である。アンボイナ事件は昨年に続き連続しての出題。(7): 教育学部としては画期的な地図問題。教科書定番の「ナポレオン時代のヨーロッパ」が頭に入っていれば楽勝である。(8): タンネンベルクの戦い(1914.8)→14カ条(1918.1)→ブレスト=リトフスク条約(1918.3)→キール軍港水兵反乱(1918.10)の順。今年1918年からちょうど100年。(9): ②-日本の第一大戦参戦は日英同盟による。そもそも日仏同盟なるものは存在しない。(10): a-サン=ステファノ条約(1878)でロシアが保護下においたのはブルガリア。b-ラクスマンを送ったのはエカチェリーナ2世。c-ニコライ2世が退位したのは三月(二月)革命。設問A: トリエステと鉄のカーテンは基礎事項。</p>	標準
3	中国歴代王朝の都	<p>(1): 夏を滅ぼした殷王は湯王。半ば伝説上の王朝である夏(建国=禹→滅亡=桀)、確認できる最古の王朝殷(建国=湯→滅亡=紂)らの名は用語集の説明文に見える。この4人のうち禹は別格だがあとの3人は厳しい。ただ漢文でも登場する人物なのでこちらに助けられた受験生もただろう。c-布銭・刀銭の出現は春秋末期。(3): a-郡国制は前漢建国以来の制度。呉楚七国の乱(前154)以後は中央集権化が進み実質的には郡県制と変わらなくなった。(4): c-燕雲十六州は後晋の石敬瑭が建国に際して遼の支援を受けた見返りに割譲(936)。(5): 図版で出題されることが多い「清明上河図」の作者は張昉。董其昌は明末の画家、馬致遠は元曲『漢宮秋』の作者。徐揚は清代の画家だが一般的ではない。(6): a-『水滸伝』は南宋時代に原型が成立し元末明初に施耐庵と羅漢中がまとめた。元末の紅巾の乱(1351~66)をモデルにはできない。(7): b-「一世一元」の制は朱元璋が建国以来の元号である「洪武」を使い続けたことにはじまる。明治維新で日本も導入した元号はこの明の制度を踏襲したもの。日本古来の伝統とみなされている制度に中国由来のものは意外に多い。(8): 雲南の藩王呉三桂はやさしい。語群に広東の尚可喜、福建の耿繼茂が混じれば難しくなった。(9): c-太平天国のローガンは「滅満興漢」。「扶清滅洋」は義和団。(10) 汪兆銘は基礎事項。設問A: 『水滸伝』は作者・道元を書かせられるときついで書名なら一般的。設問B: 募兵制、設問C: 浙江財閥は基礎事項。</p>	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
4	中国とイスラームの歴史	中華人民共和国内のムスリムについてのテーマ史。最近は西欧での移民・難民としてのムスリムが注目されることが多いが中国のムスリムも看過できない問題。(1): d-ナスル朝の都はグラナダ。(2): タラス河畔の戦い(751)は頻出事項だが現在どこの国にその場所があるかは意外な盲点。旧ソ連中央アジアの4共和国(カザフスタン・ウズベキスタン・タジキスタン・キルギス・トルクメニスタン)の位置取りは難しい。ただこの問題の場合は消去法で簡単に解決できる。(3): c-マンスールが正解だが、語群の中に正統カリフとウマイヤ朝建国者がおり、あつという間に二択でほぼ解決。(4): a-広州には玄宗皇帝時代の開元2(714)年に初めて市舶司が置かれた。蕃坊と呼ばれる外国人居留地が設けられモスクも建てられた。(5): チンギス=ハンに滅ぼされた国は2つ。西のホラズム=シャー朝と東の西夏(1227)。(6): バグダード占領(アッバース朝滅亡)のときのモンゴル征西軍のトップはフラグ。これは基本中の基本。(7): c-キプチャク=ハン国はモスクワ大公国の自立を経て分裂。多数のジュチ系国家を生んだ。特定のどれかによって滅ぼされていない。(8): モンゴル帝国の駅伝制(ジャムチ)はチンギス=ハン時代にさかのぼる。(9): ヤークーブ=ベク自体がかなり細かいのでその出身国となればなおさらである。ただコーカンド=ハン国は最も東によって新疆と接しているので類推は十分可能である。(10): ネルチンスク条約(1689)が見えれば即答できる。設問A: マラッカ、設問B: 乾隆帝はともに基礎事項。	標準

[総合コメント]

このところ続いていることだが、記述式の10問は基礎的な出題が目立つ。また中国文化史からの出題が続いているので対策を講じておきたい。一昨年、初めて登場した二文正誤と年代配列問題には難問が散見される。正誤判定問題の誤文にはポイントの見えやすいものも目立つ。また一見難問に見えても消去法で十分対処できるものもある。年代については正誤のポイントになっている場合と年代順に史実を配列するものもある。どちらにしても年代のレパートリーを増やすしか対策はない。地図問題は定着するかわからないが、出題されるものとして準備しておいて損はない。